

**平成28年度
第3回
関市総合計画審議会
会議録**

(平成29年3月21日)

第3回関市総合計画審議会

1 日 時

平成29年3月21日（火曜日） 13時30分～15時12分

2 場 所

わかくさ・プラザ 学習情報館 3階 3-2研修室

3 出席者

委員（12名）

（敬称略、順不同）

区 分	氏 名	選 出 団 体 名
1号委員	大澤 慶一	関市農業委員会
2号委員	岩井 憲司	関市自治会連合会
〃	澤井 基光	関市社会福祉協議会
〃	栗倉 元臣	関商工会議所
〃	○ 安田 美紀子	関市地域女性の会連合会
〃	武藤 記子	ほらど未来まちづくり委員会
〃	長屋 久直	板取ふれあいのまちづくり委員会
〃	古田 明	武芸川まちづくり委員会
〃	馬淵 美智子	NPO 法人 日本平成村
〃	小森 恵子	社会福祉協議会上之保支部
3号委員	◎ 田村 弘司	中部学院大学
4号委員	波多野 文香	公募

◎：会長、○副会長

事務局（関市 6名）

企画部長 桜田 公明

企画政策課長 森川 哲也

企画政策課 山田 壽紀

長屋 高浩

深川 理代

西村 諒子

4 欠席者

委員（8名）

（敬称略、順不同）

区 分	氏 名	選 出 団 体 名
1号委員	田中 彰	関市教育委員会
2号委員	塚原 佳人	関市消防団
〃	石丸 継治	関市老人クラブ連合会
〃	鈴木 良春	岐阜県関刃物産業連合会
〃	杉山 道夫	関市青少年健全育成協議会
〃	山田 和正	関青年会議所
3号委員	山岡 一清	岐阜医療科学大学
4号委員	高井 澄恵	公募

5 次 第

1 開会

2 会長あいさつ

<議題>

3 関市第5次総合計画 基本構想（案）について

（1）将来都市像とまちづくりの視点

（2）SEKism（関イズム）プロジェクトとまちの整備方針

（3）目標人口

（4）まちづくりの基本政策

4 閉会あいさつ

午後 1 時 30 分 開会

1 開会あいさつ

< 関市民憲章の唱和 >

< 事務局より、総合計画審議会の設置条例第 6 条第 2 項の規定により審議会の成立の報告 >

2 会長あいさつ

(会長)

司会進行の田村です。三寒四温、徐々に春に向かってはいるが、昨日は気温が 20 度近くまで上がり上着もいらぬ気候だったが、一変して今朝は非常に寒い。体調も崩しがちで花粉も飛んでいるが、間もなく桜も咲くのではないかと思う。年度末の差し迫った時にご参集いただき、ありがとうございます。

7 月に諮問を受け、その後 12 月の審議会でもご意見をいただき、それをもとにまた取りまとめられている。本日は第 5 次総合計画の基本構想素案が出されているので、今日はこれについてご意見をいただきながら、5 月の答申に向けて進めていく。よろしくお願ひしたい。

私が今勤務している大学の卒業式が、土曜日に岐阜長良川国際会議場で開催された。関市の中に大学が 2 つ、専門学校が 2 つある。市の中に学校があり若者がたくさん集うのはとても良いことで、大学があるかないかでかなり違うと思う。大学には全国から学生が来ており、例え 4 年間であっても関市で過ごすことで、良い所だと感じて岐阜に根付く学生もいる。故郷に帰らない学生がほとんどで、卒業後は岐阜、愛知、東京に行く。若者が生活しやすいまちづくりは年配の人にとっても住みやすいと思うし、それは女性でも子どもでも同じだと思っている。人口も下がってしまったとニュースがあったが、人が色々なところで集うことはとても良いことだし、私達も学生をまちなかに出すように努めている。

それぞれの会の代表をされている委員からの活発な意見をいただき、少しでも関市の発展につなげていくため、本日もよろしくお願ひしたい。

< 議事録署名者に栗倉委員、武藤委員が決定 >

議題

3 関市第 5 次総合計画 基本構想 (案) について

(会長)

では、「議題3 関市第5次総合計画 基本構想(案)」について、事務局から説明をお願いします。今回もかなりボリュームがあるため、時間を考慮していただきたい。

<事務局より、議題3(1)～(3)について資料1に基づき説明>

(田村会長)

ありがとうございました。(1)～(3)、16～22ページあたりまでの説明があったが、委員の皆さんからご意見を伺いたい。

「議題(1) 将来都市像とまちづくりの視点」に対してご意見・ご感想はいかがか。

(委員)

感想なのだが、将来都市像の「#Smart SEKism」は、正直懲りすぎていて分かりにくいと思ってしまった。#の意味が色々あるので、一般の人に聞いてもたぶん言えないと思う。ハッシュタグは若い人にもつながっていることなのでその辺りはよくわかったが、懲りすぎているのではないかというのが正直な感想である。

(会長)

横文字を使って斬新さを出そうという説明もあったが、一般の市民目線で見ただけの観点もあると思うので、そのあたりは事務局としていかがか。

(事務局)

「#Smart SEKism」に至るまで色々な経緯があった。市長から、例えば「エコピア(エコロジーとユートピア)」などのように、まず英語をイメージしてほしいという声があった。それと若者が魅力的だと感じるような、新しい層を対象として発信できるような将来都市像にしてほしい、という宿題に対して最終的に出した答えである。今日頂いた意見は検討する。

(会長)

感想でも構わない。まだコンプリートしていないので色々意見をいただきたい。

最近、英語の頭文字を取ってつくる言葉が結構出てきている。私は英語が専門なのでSEKismのスペルが気になった。「セキズム」というのに、SEKIのIがない。「セキスム」ならわかるが、これを「セキズム」と読むのは辛い。外国人が見た時、変な英語だと思ってしまわないだろうか。18ページには「セキズム」と「セキスム」が両方カッコで書いてある。パッと見た時に疑問を感じるのは私だけではないだろう。このあたりはいかがか。

(事務局)

私どももだいぶ迷った。イズムという言葉、すなわち「関市主義」という言葉をクローズアップさせるためにSEKIのIを取った。これもまた持ち帰って検討する。確かに読みにくいと言えるかもしれない。

(会長)

刃物のPRなど、関市は前向きに色々なアイデアを出しているのも良いと思っている。

では「議題(2)SEKism(関イズム)プロジェクトとまちの整備方針」はどうか。

前回、横文字が多いという話があったが、後ろに脚注をつけてくれたのがとてもわかりやすいのでありがたいと思った。

では「議題(3)目標人口」はどうか。

(委員)

出生と死亡で計算していくと85,000人という数字になるということである。何とか90,000人を維持するには、教育や高齢者に関わることなど、色々と施策が出ていると思うが、どうしたらよいか。「自然に減っていくから仕方ない、しかし若干努力します」というのはわかるが、関市に来て住んでもらう、働きに来てもらいここで定住してもらうために、関市は今後、この第5次総合計画で何をすべきなのか。どういう方向性なのか。

目標は、現状より上を目指すものである。現状より少ないものは目標なのだろうか。まだ先が10年あるのだから、名古屋や岐阜から人を連れてくるなどして、何とか90,000人を維持するような目標を掲げられないか。

(会長)

いかがか。もっと高く持てという熱い意見であった。

(事務局)

85,000人という数字について、もう一度21ページを見ていただきたい。総合計画の最終年度を一番下のパターン②でみると、現状で推移した場合に落ち着くだろうというのが81,000人弱のところである。私たちの目標が85,000人となっており、今後の10年間に政策で4,000人を移住定住させて増やすということはかなり大変なことだと思っている。市長からも、区切りが良いということで85,000人という指示を受けている。

(委員)

先をもう少し考えて、きりの良い90,000人ではどうか。目標が現状より少ないというのが気になっている。

(会長)

現状は90,000人より下回ったところだが、このまま行くと81,000人になるので、それよりは4,000人上乘せしようということである。これは悩んだ挙句の数字だと思う。

(委員)

それを関市の目標にして良いのか。自然減があるのはわかる。目標を下げれば下げただけの努力しかしない。目標に対して何をして行くのかを考える。100点を取るためにはどうしたら良いか、何をしたら良いか、どこか問題はないか、と見直していくのが民間企業の考えである。商工会のメンバーに説明するときでも、10年経って90,000人が85,000人に減るがこれが目標だと言えば、「現状より低い目標があるか」と言われてしまう。

(委員)

第5次計画が2018年度から2027年度である。来年度この計画が出る。その時に今の人口と変わらない数字が目標になっているのも少しおかしいと思う。確かに10年後を考えると理解できるし、市長の意見もわかるが、来年度、この数字が市民に発表された時に、「これでいいのか」と皆さん思う気がする。

(事務局)

22ページに合計特殊出生率がある。これは、人口を維持するためには最低でも夫婦に2人子どもがいけない、ということである。現状の数値が1.49であるなか、国も県も2030年に1.8、2040年にやっと2.0にしようとしている中で、何もしないと人口が減っていくのは見えている。しかし出生率を10年、20年のスパンの中で上げていくのは至難の業である。そうすると、人口ピラミッドの若い世代を関市に転入させようという方策になる。たまたま美濃加茂市に若い人が増えていて人口が維持しているのでそれを目指そうということだと思うが、これが関市で同じようにできるかというハードルが高い。希望は確かに希望だが、もう少し現実的な希望にしていただければと思う。

(委員)

2027年に85,000人を目指すと、関市全体に公表されるのだろう。

(会長)

粟倉委員から叱咤激励を含めてのご意見だった。今の人口よりも少ない人口が目標になっているのが気になるということである。

出生率をみると確実に読めてくるが、個人的にはそれだけでは例え85,000人を目標にしても難しいと思っている。瑞穂市は外から人が来ている。そのためにどう

いう政策が計画に盛り込まれているかを考えないといけない。若い人をとにかく呼んできて、結婚してもらってここで出産してもらって、というだけでは無理だと思う。

(委員)

私どもも婚活の機会を設けている。男性は応募がたくさんあるが、女性は人に頼んでもなかなか集まらない。人口ピラミッドを見ても14歳以下は減っている。各組織でも婚活委員会を開いているので、募集する女性は少し年齢を上げてでも、結婚して、関市に住んで2人以上出産してもらい、人口が増える魅力のある関市にしないといけないと思っている。

(委員)

学生が卒業して地元に戻らずに関市に定着することについては、自分もまさに4月から就職なので、友人とそういった話をする。私は岐阜大だが、高山や下呂、愛知県から来ていて地元に戻らずこちらで就職する友達も多い。理由は2点あり、1つ目は慣れたところで就職したいということ、2つ目は就職先の新人教育が整っているということである。早く一人前になれるプログラムがあるところが地元よりも魅力的であるという意見があった。学生が関市に残って住むようにするためには、企業側も新人教育などのPRをしたほうが学生に興味を持ってもらえるのではないかと思った。

(会長)

私の大学でも中濃消防に就職した学生がいる。他地区出身だが、関はいい所だと言って就職してくれる。ありがたい。関市は結構PRしているが、意外と学生の中に情報が入りきっていない部分があると思う。地元でインターンシップを行ったりはしている。

(委員)

関市内では下有知や倉知などの4か所だけで人口が増えており、あとはすべて減少していると聞いた。倉知は新しい住宅も増え、80軒で300人、子どもは125人いるという。関にいたら仕事があるかということと全くない。住むところをきちっとしてあげれば各務原、美濃加茂、近隣に行けるように人口も増えるかと思う。

大きな企業を関に持ってくるのは難しいことだが、就職するところがないことが問題である。近郊のベッドタウンでも良いので人口を減らさないようによろしくお願いしたい。

(会長)

関市の学生は近くに映画館、温泉がある。「君の名は。」が有名になった飛騨市は

映画館がない。飛騨市の市民は地元が舞台になっているのに映画を観られず、行政の主催で2回程上映したがチケットはすぐ売り切れたそうである。

瑞穂市は名古屋まで23～4分で行けるため、外から人が来ている。ベッドタウン化しても人が住んでくれるのは活気あるとても良いことである。様々な施策を考えられていると思うが、若い人が出産するだけでは追いつかない。

(委員)

私が住む地域は、15～20年前まで70軒弱だったものが、今は220軒である。通勤時間帯は道路が渡れないくらい車が多いが、中央病院からこちら側はかなり少ない。私が住む地域にはどんどん人が集まっていて、家族や子ども連れが来てくれている。夫婦と子ども2人が来てくれると人口は一気に4人増える。そのかわり教育・医療関係は市が補助している。土地も安いし、名古屋のベッドタウンとして、経済圏として人を呼び込む方法を10年ぐらいのスパンで考えていくといいと思う。

(委員)

私は板取だが、空家を利用して小さい子どもを連れた夫婦が転入してきた。子どものアトピー体質を良くするために移住して3年ぐらいになるが、子どもの体調が非常に良くなって喜んでいる。人数は小さいが、そういった小さな積み重ねも人口増加につながる。

先程話に出たが、大学は大きい財産だと思う。近所の子どもたちを見ていると、たいいてい岐阜の大学を卒業した子どもは岐阜での就職が多く、名古屋の大学出た子どもは名古屋からそれ以上遠い所へ、という傾向がある。職場は教授が紹介するような事もあるので、なるべく地元で就職してもらえよう、学校の力も借りながら若者の定住を進めるのも良いのではないか。それから、最近若い女性が大都市に集まるとい話も聞いているので、都市部を上回るような施策で若い女性がここでとどまってくれるようにしてもらいたい。

関市の委嘱で結婚相談員をやっている。相談に来る人は30代～50歳を過ぎた方もおり、年間で成立するのはせいぜい1～2件で、0件の年もある。結婚には適齢期があり、30代半ば、40代を過ぎるとうまくいかない。警察官はなるべく早く結婚するように言われるようだ。関市の各職場で、もちろん人権侵害しない範疇でそのような取組もやっていくと、人口増加につながるのではないかと思った。

(委員)

上之保地域は人口も少なく、28年度に生まれた子どもが6人でも多かったという地域である。今年中学校を卒業した子どもが33名いるが、高校を卒業すると大学のある地域へ行ってそこで就職、結婚する。中々地元に戻ってくる子どもがいない。人口は減るばかりで、空家に若い人が来ることはなく、定年後の夫婦が来ることはある。地域に希望がなくなっていくので何とかしてもらいたいと思っている。

(委員)

私の所でも同じような事で人口は減るばかりである。動物は増えるばかりで、人は減っている。

(会長)

関市以外から人が来るためには、やはり仕事が多い。高校を卒業して大学のために他県へ行く。しかし帰ってきて就職できる場所があれば良い。故郷で、家があり、環境も良く、子育てしやすいので、あとは仕事がいっぱいあれば人が来る。あとは教育である。今、どの市も子育て支援に力を入れている。移住してもきちんと給料をもらえる職があるかどうかは行政としても考えていると思う。

(委員)

今の経済情勢の中で厳しいかもしれないが、企業誘致を促進すれば会社の寮ができるなどして、人口増にもつながる。

また、以前から話があった交通網の整備や利便性を高めることを一番先にやらなければ人口増にはつながらない。今度、医療大学の学部が移動すると聞いたが、どうなっているのか。

(会長)

岐阜医療科学大の看護系学部が、可児市の名城大都市情報学部があった所へ移転するので、確実に減る。85,000人が気になる数字なので、色々ご検討頂きたい。次に、「議題3(4)まちづくりの基本政策」に移る。

<事務局より、議題3(4)について、資料1に基づき説明>

(会長)

「議題3(4)まちづくりの基本政策」についていかがか。具体的な役所内の組織の再編成の事についても触れて頂いたが、非常に整理されて、見やすく分かりやすい形になっていると思う。

(委員)

とても良くできているが、縦割りでそれぞれが独立してしまって、横のつながりがない。全部それぞれに分けて整理したことはとても良いと思うが、横につながないと本当の住民のためになっていかない。現状もそれぞれ独立して政策を進めている。一番初めにある「支える」というのは、一方的な支えではなく、「支え合う」ことだと思う。支える方向を間違えると魅力ある地域にならない。教育にしても福祉教育というのは一番の根本にないといけない。人と人をつなげる教育がとても大切だと思う。

先程の目標人口の話も、時代の流れとして仕方ないと思うが、私たちが今考えられる事はその地域のことであって、少子高齢化になってもその地域が住みやすくなければならない。過疎化になって住みにくいという話ではなく、過疎化になっても住みやすい地域をつくっていくのが本当だと思う。資料を見ていて、地域の住民側に立って考えているのか不安に思う。やはり人と人がつながっていく事を第一に考えないと、本当に住みにくい地域になってしまう。いくら人が入ってきて、つながりがなければその地域はダメになってしまう。もっと人づくりを強調していただきたい。

総合計画なのでここでまとめてくれると思っていましたが、縦割りで終始してしまうような印象を持った。

(会長)

貴重な意見だと思う。総合計画審議会なので、おっしゃる通り、細かい所でやっている事の大まとめとなる。おそらく事務局も、縦割りの弊害を何とかクリアすべくこの内容を検討しているとは思いますが、どうか。

(事務局)

これまでは政策と部がバラバラで、部の目標がなかったというのが正直なところである。今回の総合計画は「部＝政策」となるようにつくった。これが縦割りに見えるということだったが、18 ページにある「SEKism プロジェクト」は、縦の各政策を横串で刺したものとなる。横串を刺す視点は、地域経済や地域の力、住みやすさ、個人の教育などであり、それを表したものがこの 18、19 ページのプロジェクトである。

(会長)

委員からのとても大事な意見だった。是非ともその辺りを工夫していただいて、より前へ進めるような形になればいいと思う。

(副会長)

以前は何が何だかわからなかったが、こうして資料を頂いて、少しだけ分かってきた。また、人口が減っているのには驚いた。私の地域ではどんどん家が建って若い世代が入っているので、人口は増えていると思っていた。私が来た時は 60 軒だったが、125 軒と倍以上になり、学校も保育園、幼稚園も定員を満たしているので、驚いた。

もうひとつ、若い方が少ないので、これからは若い委員を増やしてはどうか。

過疎化について、地域の方が一生懸命努力しないとどんどん減って行ってしまうのではないかと。住みにくいから、何もないからではなく、例えば、上之保ならば柚子でPRするなど、盛り立てていってはどうか。自分たちの地域から人が出ていか

ないようにする方策も考えていかななくてはならない。

(会長)

おっしゃるとおり、学生の発想などを言ってもらえると良いと思う。波多野委員、全体を通して何かないか。

(委員)

私はまちづくりやまちおこしに興味がある。たまたま大学に、柳ヶ瀬でまちおこしをやっていた教授がおり、そのご縁でこの場に来させていただいた。大学時代もまちおこしに関わり、積極的な子は色々な所で活動をしていて、柳ヶ瀬で知り合っ
て関市の上之保の地域おこし協力隊に入った友達もいる。大学で、まちおこしに興味がある子はたくさんいることがわかった。発言の場があって募ったら集まると思
う。

私自身もこの場に参加することで関市のことを知ったり発見があり、郷土愛につ
ながる気持ちも生まれたので、若者が参加できる場があると人も集まると思う。

(会長)

とてもいいご意見をいただいた。最近、色々な地域で連携がされている。新聞に
も出たと思うが、私の大学がJ Aめぐみのと包括連携協定を結び、経営学部の学生
が白川のお茶についてアイデアを出して商品化する。最近はこちらで高校生とコ
ラボする事例もある。専門高校、農業高校、商業高校と連携したハンバーグやプリ
ンなどの商品開発や、学生に地域を知ってもらい、情報を発信してもらう活動もあ
る。シャッター通りになっている商店街を学生に貸して店を開くなど、いろんな面
でビジネスができる。若者の発想はとても大事で、まちに活気を与えてくれるので、
波多野委員には友達の意見も集約しながら発言してもらえたらいいと思う。

今の内容を事務局で検討してもらい、4月にもう一度会議をして、そこで大体内
容を固め、5月に市長へ答申することとなる。今日は具体的な案も出てきたので、
各委員は持ち帰って、次回、またご意見をお願いしたい。

(委員)

31 ページのアメニティの部分で、「便利で安全な道路網の整備」、「利便性の高い
公共交通網の整備」について、整備しますと書いてあるが、10年間の大まかな計画
はあるのか。

(会長)

今の段階で話せる事はあるか。

(事務局)

地域公共交通ネットワークについて、縦割りと言われると申し訳ないが、今、公共交通網形成計画をつくっている。先程の「コンパクトプラスネットワーク」というまちづくりの方向性にあったような公共交通網をつくっていこうという5年間の計画である。例えば、それぞれの公共交通の運営を一つの母体にするなど、色々検討している。

広域交通ネットワークは、国、県が行う道路整備などとも協力してやっていきたい。

(会長)

大体意見をいただいた。要は人口を増やさないといけない。それが一番根本である。減少を食い止めるというと消極的に感じるが、人口を増やす政策を色々な所で打ってもらうという事である。大変な政策になってくるが、キーワードは「人口増」である。それに色々な課題が全部ぶらさがってくる。人がたくさんいて賑わうことは、市の財政、生活の利便性向上につながる。非常に難しい問題ではあるが、他市町での成功事例や今日の意見を参考にして事務局でご検討いただきながら次回を迎えたいと思う。

(事務局)

本日いただいた意見は、次回、4月に提案をして最終確認をしていただくことになる。

4 その他

<事務局から資料3に基づき、スケジュールの説明>

(事務局)

委員の任期は6月で切れるが、総合計画の策定は来年3月まで続いていくので、ぜひ皆さんには3月まで延長して残っていただきたい。

5 閉会あいさつ

(企画部長)

ご意見、ありがとうございます。今回は基本構想で、その後基本計画が入ってくる。途中で委員任期が切れるということで、今回は契機にうまく計画と合うような任期に変えていきたいと考えている。せっかくここまでご審議いただいたので、基本計画までご意見をいただきたいと思う。

今回は基本構想、基本計画の具体的な施策まで入ってきていないので、関らしさが見えない。どこの市町村とも同じような構想だという意見も多かった。どうやって関らしさを出すのかということで、先程の将来都市像「#Smart SEKism」がある。市民目線ではちょっとわかりにくいというのはその通りかとも思う。第4次総合計画では「水と緑の交流文化都市」を将来都市像に掲げていたので、それに比べると「#Smart SEKism」は、聞いただけではイメージが湧かないというのはその通りだろう。企画政策課の職員が相当頭をひねってよくつくってくれたと思っている。シャープという言葉も関の刃物のエッジが効いたようなイメージがあり、良くここまでつくってくれた。これから市民にわかってもらえるかどうか、議会の議決ができるかどうか検討する。

また、関らしさとして「SEKism」のプロジェクトがある。普通は基本構想の中には入れないものだが、関らしさを出すために、10年の間に関市として大事にしていく取組をこの基本構想の中に入れようということだった。これも大変だったが、少しは他市と違いがある基本構想になったと思っている。目標人口の90,000人については、次回の4月までにもう一度よく検討したいと思う。最後に、澤井委員からあった連携のことも、総合計画の中でどのような表現ができるのか、合わせて検討させていただきたいと思う。

いずれにしても4月にもう一度会議を開催し、そのあと答申、パブリックコメントという流れで9月に議会にかける予定なので、今後ともよろしく願いしたい。ありがとうございました。

15時12分 閉会